

言ノ葉

作詞:額田王／大海人皇子／作者不詳／VocaRize

万葉集「巻 1-20」より引用

万葉集「巻 1-21」より引用

万葉集「巻 5-梅花の歌三十二首の序文」より引用

作曲:VocaRize

<1A 0:31>

梅の花 見上げ一人 黄昏て歌を詠う
懐かし流るゝメモリー あれは何時ぞやの
肌寒い月夜の下 鼻唄を口ずさんで
また書き留めたメロディー それは生きた証

<1B 1:01>

“あかねさす 紫野行き 標野行き
野守は見ずや 君が袖振る”
よしておくれ 握らぐ恋の季節

<1sabi 1:15>

千差万別の歌 あなたが奏でる
たつた一つの言ノ葉
詠み人の想いは 時代を越えて
今、僕等の中で生きている
美しく、時に切なく

<2A 2:09>

“初春の令月にして
氣淑(きよ)く風和(やわ)らぎ
梅は鏡前(きょうぜん)の粉(こ)を披(ひら)き
蘭は珮後(はいご)の香(こう)を薰らす”

<1A' 2:24>

形は違えど 何処か通するものが
あるんだきっと
訊かなくてもわかるさ 観ているその景色

<2B 2:43>

“紫草の にほへる妹を 嶄くあらば
人妻ゆえに 我恋ひめやも”
気付けば またあなたを浮かべてる

<1sabi 2:57>

千差万別の歌 あなたが奏でる
たつた一つの言ノ葉
詠み人の想いは 時代を越えて
今、僕等の中で生きている
美しく、時に切なく